

ALS コミュニケーション支援の取り組み

リハビリテーション科では平成 27 年度より神経内科、大阪難病医療情報センターと連携し、ALS 入院患者さんのコミュニケーション障害に対してチームを立ち上げ、支援を行っています。

ALS のコミュニケーション障害とは

ALS は手足の力や話す力、飲み込む力、呼吸をする力などが徐々に弱くなっていく進行性の病気です。病状が進行してくると話しづらさ、字の書きづらさ、表情の読み取りづらさなど、他者との意思疎通が困難になります。この状態をコミュニケーション障害といいます。

ALS のコミュニケーション支援

コミュニケーション障害が進行してくると「意思の伝達」という、自分の気持ちをスムーズに相手に伝えることが困難となります。しかし、コミュニケーション用具を使用した支援を行うことで意思疎通が可能となり、主体的な意思伝達が行えるようになります。

ALS は筋力低下が起こる身体の種類や進行の早さも人それぞれ異なるため、病状の進行や身体状況に応じたコミュニケーション支援を行う必要があります。

コミュニケーションの方法

『どのような場面で、どのような内容を伝えたいのかあるいは困っているのか』という本人や家族、支援者等のニーズ、抱えている問題を確認した上で必要なコミュニケーション方法などを身体機能に応じて導入していきます。

○非エイド・コミュニケーション…道具を使用しない方法

例) 身振り手振り、眼の動き、会話、口文字盤
空書（指で机や手掌に文字を書く）等

○ローテク・コミュニケーション…簡単な道具を使用した方法

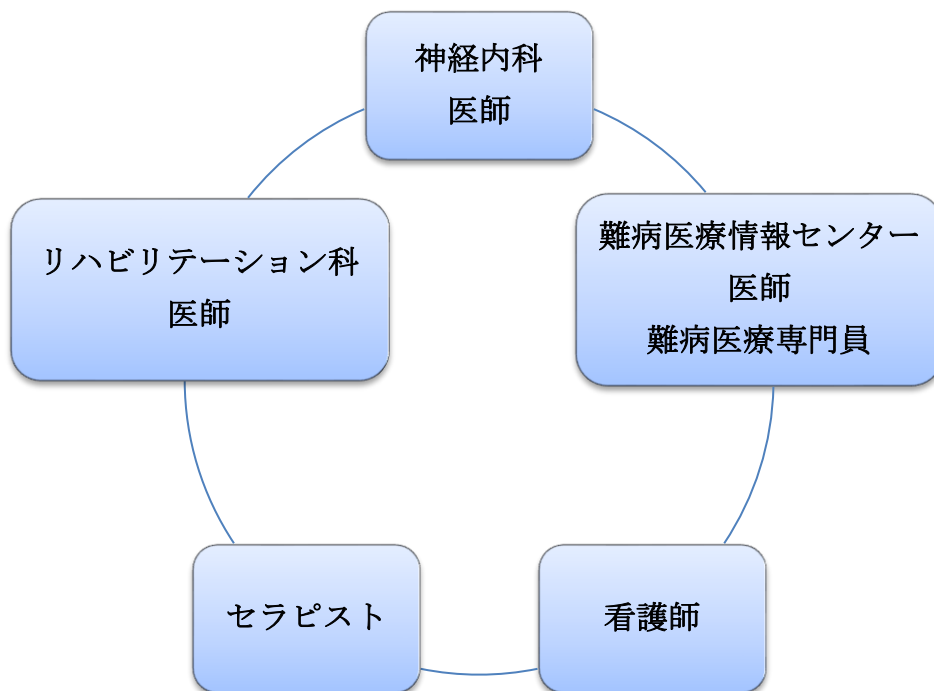
例) 筆談、文字盤、透明文字盤等

○ハイテク・コミュニケーション…意思伝達装置を使用した方法

例) レッツチャット、伝の心、オペレートナビ等

ALS のコミュニケーション支援チーム

ALS に関わる多職種がチームを組んでコミュニケーション支援を行います。

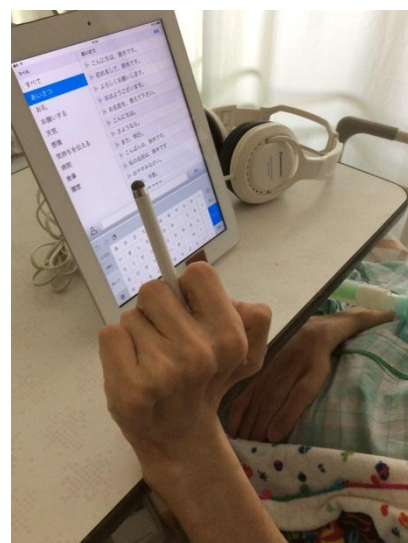
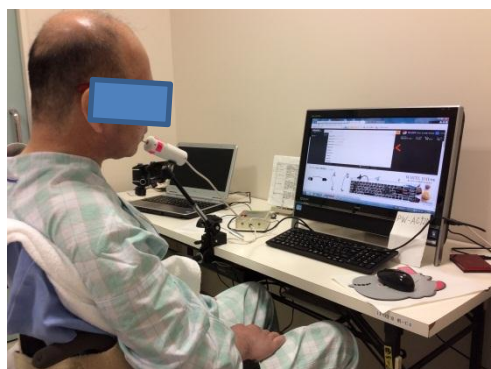


ALS コミュニケーション支援チームの活動

チーム回診



訓練



問い合わせ先

相談を希望される方は大阪府立急性期・総合医療センター内にある『大阪難病医療情報センター』にお問い合わせください。

月曜～金曜日：10時～16時

電話：06-6694-8816

ホームページ：<http://osakananbyo.jp/sodan/index.html>